



代表取締役 八木 勇達

## 企業概要

## 木箱に蒔絵をはじめとした和柄を施し、付加価値を高めた製品を商品化

### 概要

木箱に蒔絵柄等を施して日本独自の価値観を創出するため、UVインクジェットプリンターを導入し、木箱へのダイレクトプリント化を実施

### 本事業への取り組みの経緯

ニーズに合わせた木箱を製造・販売している当社では、既存顧客から海外向けの商品に対し、和の趣を取り入れ高級感を持たせたアピール力の高い木箱が欲しいとの要望を受け、浮世絵や美人画などをモチーフにした市販の蒔絵シールを貼った木箱や、箱自体を和紙で包んだカラフルな木箱の製作を行っていた。しかし、どちらも仕入れ・加工価格における不採算性が課題となり、商品化を断念せざるを得なかった。

そこで本事業では、蒔絵柄等を施した木箱や、その技術によって自社オリジナル製品の製造・販売を行う新事業の立ち上げを見据え、その生産体制構築に向けた設備導入と技術の確立を目指した。

### 事業概要

本事業では、木箱に直接印刷が可能なUVインクジェットプリンターを導入。実際に素材に対して、目的に合ったプリントを施すための面付け方法等を検証した。また、鮮明にプリントができる素材探しや、平面だけでなく高さのあるものへの印刷、蓋から側面へとつながるデザインの印刷、事前にUVインクジェットプリンターにて白インク+プライマー（塗料接着剤）をプリント後、箔



UVインクジェットプリンター



高さのある箱の蓋上部への印刷を検証

を施す箔印刷等、試作品の開発を通して、商品化に向けた多様な印刷が可能かどうかの検証も行った。



白松材に浮世絵の図案を印刷



蓋から側面につながるデザイン

### 事業成果

UVインクジェットプリンターの購入により、製品へのダイレクトプリント化が実現した。これにより、1枚当たり250円の蒔絵シールを用いたり、和紙代・和紙貼付賃だけで1,120円かかった

陶器や漆器を入れる木箱から始まり、価値あるものを木箱に納めるといふ、独自の美意識・日本文化伝承の一翼を担いながら、お節箱などを中心に、優れた木製品を製造。さらに木箱だけでなく、木を用いた幅広い製品をオリジナルで製造・販売するため、自社ブランド「和bi匠」を立ち上げ、伝統の技と創造力を駆使し、木製品の可能性を広げる新たな商品の開発に努めている。

従来製品に比べ、蒔絵シールと同等のものを1つ当たり4.2円に、和紙貼付けと同様のものが86円で製作可能となり、高付加価値商品をより簡易かつ安価に創作できるようになった。

### 事業の活用状況 （補助事業実施後の取り組み）

創業以来、国内木材（特に東濃地域のスギ材やヒノキ材）を材料とした木製品を製造してきたが、品質のよい製品づくりに加え、導入したプリンターを駆使し、新たな付加価値を兼ね備えた商品を国内・海外に発信していく。折しも3年後には東京オリンピック開催を控え、外国人旅行者も増加傾向にある現況を踏まえ、早急に蒔絵小箱等の新製品を商品化し、市場に出していきたいと考えている。

また本事業により、今まで受注を主としてきた業態に加え、当社主導の商品販売で新たな売上を生み出す可能性を高めることができた。デザインを付加することで、同業他社との差別化を図り、新たなユーザー獲得に努める。

さらに本事業後、タイルの生産地である多治見のタイル業者から、同技術を使って和柄を施したタイルが作れないかとの提案があった。現在、サンプル及び小ロットで対応できる製品化に向けて動き出しており、木製品の枠を超えた新商品の展開にも意欲的に取り組んでいる。